



駒本の力

駒本小学校（家）
教育活動紹介便り
校長 田中 克昌
NO. 13
平成27年11月16日

「どの子ども伸ばす、駒本の教育」2

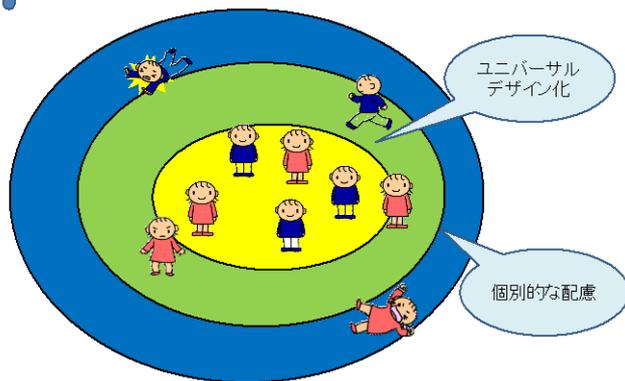
「どの子ども伸ばす、駒本の教育」を確立していくためには、まずは学習や生活における基本的なルールや習慣を全校統一的に定着させることが基本となります。その上で、特別支援教育の視点に立った教育活動を展開することです。前回説明しましたように、本校では特別支援教育を特定の支援や配慮を要する児童への教育という狭い範囲では捉えていません。本校が目指している姿は、障害のある子どもを含む全ての子どもに対して、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を行う教育です。ですから、在籍している「どの子ども」伸ばす教育を確立することであると考えています。

【特別支援教育の視点に立つとは？】

さて、この特別支援教育の視点に立つと言うことは、次の2点を考えています。①配慮が必要な子への支援は、どの子にとっても必要な支援である。（ユニバーサルデザイン化）②自然な形での個別の課題に応じた配慮を行う。（合理的配慮、個別的な配慮）というものです。この2つの視点を図にした物が下の図です。この2つの視点に基づいた支援が全ての教室で全ての授業で実現すれば、学級全体の児童を包み込むことができ、どの子ども伸ばすことが実現できると考えています。

【授業のユニバーサルデザイン化とは？】

学級全体を包み込む支援



ユニバーサルデザインのもともとの意味は、年齢や障害の有無にかかわらず、できるだけ多くの人々が利用可能であるようにデザインされているものです。これからの共生社会に必要不可欠な考えです。教育におけるユニバーサルデザインとは、このような視点に立ってどの子にとっても分かりやすい授業をめざすことであると考えています。配慮が必要な子にとって、参加しやすい学校、分かりやすい授業は、他の全ての子にとっても、参加しやすい学校であり、

分かりやすい授業であると考えます。

【授業のユニバーサルデザイン化の具体は？】

本校では、授業のユニバーサルデザイン化を推進する上で、以下の5つの取組を定めています。「構造化：共通の学習過程による授業の構造化」「視覚化：視覚情報と音声情報の併用による分かりやすい指示・説明」「焦点化：明確で具体的で端的な指示や発問」「共有化：児童同士の学び合いや板書等による学習の共有化」「意欲化：児童の意欲を高め、自己肯定感を高める支援」

< 続く >

駒本スタンダード（生活編）について

「どの子ども伸ばす、駒本の教育」のベースとなる「駒本スタンダード」について解説します。学習編と生活編の2つに分け、駒本小学校のベースをしっかりと身に付けるためのきまりとしました。今回は「生活編」について紹介します。特に、登校時の居ずまいを正した挨拶、校舎内でのこんにちはの挨拶、外履き、上履きのくつピタ、はい・ありがとうございます・お願いします・ごめんなさいの4つの言葉を始めとする丁寧な言葉遣いの指導に力を入れています。教員には「指導しきる」ことの大切さを伝えています。「指導しきる」とは、具体的には達成状況が90%を超える状態であると考えています。駒本スタンダードの定着状況を上げるためには、学校の指導はもとよりご家庭のご協力がとても大切ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

駒本スタンダード（生活編）

1. 登校時

- ◇校帽をかぶって登校しよう。
- ◇校門では、校帽を取り、立ち止まって元気な声であいさつをしよう。
(居ずまいを正したあいさつ)
- ◇外履きは、決められた場所に、かかとをそろえて入れよう。(くつピタ)

2. 登校後

- ◇名札を着ける。
- ◇火・水・金は、8:25になったら読書タイムに取り組もう。

3. 休み時間

- ◇中休みは、全員外に出て遊ぼう。
- ◇昼休みと放課後遊びのときのみ、ボールを蹴る遊びができます。
- ◇遊び終わったら、遊び道具を片づけよう。

4. 校舎内での行動

- ◇先生やお客様に、元気よくあいさつをしよう。(こんにちは、会釈)
- ◇4つの言葉を大切にしよう。
(はい・ありがとうございます・お願いします・ごめんなさい)
- ◇ていねいな言葉をつかおう。(です・ます)
- ◇廊下は、右側を歩こう。

5. 清掃

- ◇1:20~1:35まで、縦割り班で協力して掃除に取り組もう。

6. 下校時

- ◇名札は、教室の決まった場所に置いて帰ろう。
- ◇上履きは、決められた場所に、かかとをそろえて入れよう。
- ◇校帽をかぶって下校しよう。